

氏名	構井 友人		
学位の種類	博士 (マネジメント)		
学位記番号	博 乙 第 2821 号		
学位授与年月日	平成 29 年 3 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当		
審査研究科	システム情報工学研究科		
学位論文題目	Exploring the Role of Consumer's State Dependence Behavior and Strategic Interaction Between a Retailer and Manufacturers (消費者の状態依存行動と小売・メーカー間の戦略的相互作用の役割の探求)		
主査	筑波大学 教授	Ph.D. in Organizational Behavior	渡邊 真一郎
副査	筑波大学 教授	博士 (工学)	イリチュ 美佳
副査	筑波大学 教授	工学博士	岸本 一男
副査	筑波大学 准教授	博士 (経済学)	生稲 史彦
副査	筑波大学 講師	博士 (学術)	近藤 文代
副査	国際基督教大学 教授	Ph.D. in Statistics	金澤 雄一郎

## 論 文 の 要 旨

本論文は第 1 章の導入部分と第 2 章、第 3 章、第 4 章の主要部分で構成されている。第 2 章では消費者の行動、特に現在の購買行動は過去のそれによって影響されるとする "state dependent consumer behavior" に着目し、そのモデル化と分析を行っている。特に 1990 年 Bawa に よって提唱された hybrid behavior を新たな形でモデル化し、実証研究を行っている。その結果、消費者が hybrid behavior 型の行動をとる傾向があることを見出した。第 3 章ではメーカーと小売りの力関係と戦略的互惠関係に注目してモデル化と分析を行っている。特にメーカーと小売りの間の関係として新たに retailer Stackelberg モデルを導出して実証研究を行っている。Retailer Stackelberg モデルは小売りの強い力関係を表現するゲームで、昨今の食品業界で言われているメーカーから小売りへのパワーシフトを考える上で重要となるモデルである。分析の結果、消費者にとって価値ある商品を製造するメーカーは小売りとの力関係においても優位に立てることを示唆する結果を得ている。但し、この優位性は、同メーカーの保持する他の製品にまでは波及しないことも明らかにしている。第 4 章では、第 3 章の内容を発展させ、1 メーカーと小売店で構成されるペアが卸売り価格を交渉によって決定するナッシュ交渉モデルに retailer Stackelberg を組み込んで分析している。新たなフレームワークを用いて解析をした結果、従来のフレームワークを用いた研究結果に反して、メーカーに対する小売りの力が比較的強いという結果が得られている。また、小売りの力が強まると、メーカーの利益も増大するという結果も見られた。これは小売りの力が強まることで価格の 2 重限界性の問題が緩和されることを示唆するものである。

## 審 査 の 要 旨

### 【批評】

本論文は3つの研究からなる。第1研究では、消費者の state-dependence を実証的に考察し、興味深い知見を得た。第2研究では、この消費者の state-dependence に加えて、製品市場において生起する生産者と販売者の間の相互作用を retailer Stackelberg モデルを用いて定式化し、これら二者の先読み行動を取り入れた実証的考察を行ない、ある製品市場でどのような競争が行われているかを理解するための総合的なフレームワークを構築することに成功した。そして第3研究では、ある製品市場のブランドごとのナッシュ・バーゲニング・モデルによるゲーム論的 (retailer Stackelberg) 定式化、及び生産者-小売店の二者の先読み行動を取り入れた実証的考察を行った。1990年代前後からゲーム理論がマーケティング・サイエンス分野に取り入れられつつある中、本研究はゲーム論が効果的なマーケティングツールと成り得るための理論的定式化に向けた重要な一歩と評価できる。特に消費者の情報を身近にかつ頻繁に入手できる販売者の力が相対的に増していると言われる現在の市場を解析するための新たな理論的フレームワークを提供することができたことは、大きな貢献だと言えよう。小売店間の競争関係が仮定されていないため、実務的貢献においてはやや弱い点を残すが、理論と実証の両面では極めて優れた研究であると評価する。

### 【学力の確認】

平成29年2月9日、システム情報工学研究科において論文審査委員全員出席のもと、著者の論文について説明を求め関連事項について質疑応答を行った。その結果、国立大学法人筑波大学学位規程第2条第4項の「大学院の行なう博士論文の審査に合格し、かつ、大学院の博士課程を修了した者と同以上の学力を有すること」を論文審査委員全員によって確認し、合格と判定された。

### 【結論】

分析モデルの独自性と学術的な貢献度の高さを考慮し、本研究は博士（マネジメント）の学位を取得するための要件を十分に満たしていると判断する。